

Mi-com

武蔵工業大学後援会誌

No. 5

1991-12





留学生との交歓のおすすめ



武蔵工業大学後援会
副会長

宮崎 昭二

今から30年も前のフランス留学中のことですが、リヨン市に一泊旅行に出かけました。各国からの留学生20人ほどの団体旅行でしたが、その晩にサントエチエンヌというリヨン市から50kmぐらい離れた町へゴム器材製造会社の社長宅へ夕食に招待されました。なぜ一人だけよばれたのかわからなかったのですが、社長さん自ら運転される車でお宅に向う途中でのお話で、この団体に日本人が一人いる、珍しいというだけのことのようでした。お宅に着くとまずは食前酒を居間でご馳走になり、それから食堂で夕食になりました。その頃の留学生生活は一日5ドルの生活費で、ろくなものを頂いていなかったで、夢のようなご馳走でした。30年たった今でも生の白アスパラガスを煮たものが、珍らしくもあり、おいしくもあったことを鮮明に思い出します。

それからフランス人の家庭に何回か招かれました。ご馳走は簡単な家庭料理が多かったのですが、家族全員での笑顔の歓迎が何よりのご馳走でした。また、このような機会を通してフランス人の家庭や生活を知ることができたことが、いまでもフランスを懐しく思う一つのよすがになっています。

フランスは彼等の文化を普及するため昔から留学生を招待してきた歴史があって、一般家庭でも留学生にご馳走するのに何の抵抗もなかったのだらうと思います。

その当時の留学生は、フランス政府から生活費を支給されていました。いま、日本に來ている留学生諸君の大半が私費留学生だと聞いています。母国の何倍も生活費がかかる日本での生活は容易ではないことでしょう。ぜひ後援会の方々のご家庭を解放して頂いて、留学生諸君に日本の家庭の一端をのぞかせてあげたいと思います。また、留学生諸君も日本の科学だけでなく、その文化や生活をも知ってください。

父母がつづる(東京地区) 平成3年度「大学と父母との連絡会」

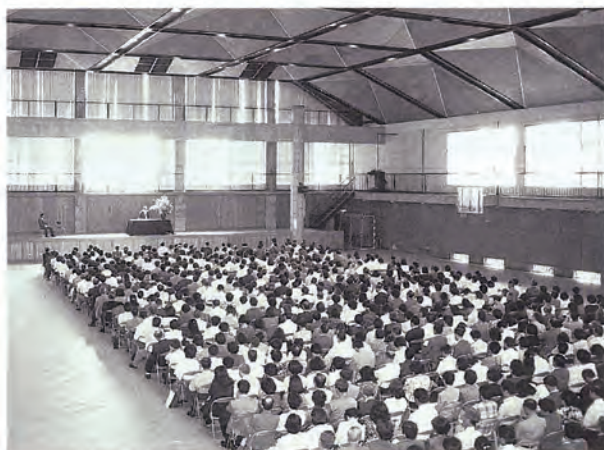


▲天気に恵まれ出足も好調

「おはようございます」の挨拶も
明るい受付女子職員▶



平成3年9月23日(月・祝)快晴。秋晴れという言葉がピッタリのこの日、武蔵工業大学キャンパスでは、平成3年度東京地区「大学と父母との連絡会」が行われました。大学と父母が連携を図り、学生生活の諸問題に対処する——という目的で始まったこの連絡会。今回も、東京・神奈川・埼玉・千葉の各都県を中心に、山梨・静岡の各地域からもたくさんの父母が集まり、大盛況のうちに進められました。ここでは、この一日の動きを建築学科の父母の皆様からいただいたコメントでつづり、古浜学長および後援会の今村理事の挨拶も交えながら、「大学と父母との連絡会」の模様をご紹介します。



▲体育館での全般説明

本日のメニューは、学内見学からスタート//

11時前から早くも熱心な父母で賑わうキャンパス。天気が良かったせいか、出足も好調でした。父母の皆さんは、まず学科別に受付を済ませてから体育館へ集合。その後、11時30分から、あらかじめ順路を分けられた見学コースに従って、学内見学を行いました。コースは、①屋上から一望する素晴らしい学校周辺環境の見学、②最新のパソコンをはじめ、データ処理機器を配備した情報処理センターの見学、③多種多様な測定機器を完備した機器分析室の見学、④キャンパスの全体像を把握していただくための、キャンパス一巡見学の4コース。これらの中から希望するコースへ案内の職員と出発し、いよいよ連絡会の始まりです。さて、皆さんの感想は…。

爽やかさ体感

—キャンパスの環境は、◎ですね。

●建築学科1年 吉田基晴君のお母さん

キャンパスの中に入ると、外から見た印象よりもずっと広い感じがします。緑も多いし…。多摩川もすぐ側にあつて、巨人軍のグラウンドも近いんですってね。屋上に上がれば、富士山や丹沢も見えるし…。都内でこれだけ自然が身近な環境は、なかなかないと思います。尾山台の駅からも近いし、街自体もきれいですね。親としてもキャンパスの環境には、本当に満足しています。



▲屋上からの眺めは、まさにグリーンキャンパス

さすが工業大学

—施設の充実に目をみはりました。

●土木工学科1年 清水孝幸君のお母さん

機器分析室を見学してきたのですが、1億円とか何千万とか、随分値段の高い機械があるんですね。難しくて、内容の方はあまりわからなかったけど、凄い機器だっているのは分かりました。



常時、係員の方が2名いらっやって、指導してくれるそうですし、先生方だけでなく学生も利用できるシステムがいいですね。見学中にも学生の方が、実際に髪の毛を顕微鏡で見せてくれたり、なかなか面白かったです。何でも、ノーベル賞が一番近い研究をしていると言われていた本学の先生も、こちらの機器を利用されているそうですね。自分の子供も同じものを使っているのかと思うと、その凄さに不思議な気がしました。



▲新装なった食堂でなごやかな昼食

食堂にて——安さに安心。ボリュームに満足。

●建築学科3年 菅野良一君のお母さん

昨年、この連絡会に来た時に比べて、随分キレイになりましたね。食堂が…。明るい雰囲気だし、電光掲示やケーブルテレビもあって、さすが設備面で一歩も二歩も進んでいるなあと思いました。禁煙だし、とってもクリーンなイメージで、いいですね。やっぱり、食堂は衛生的であることが一番ですから…。男子学生が多いせいもあって、結構ボリュームがあるメニューですね。朝定食から始まって、夕食時まで、随分たくさんメニューがあるのに驚きました。それに値段もサービスランチ260円、お好み定食400円と、手頃なのが嬉しいですね。お弁当を持っていなくていいから、親も楽ですし…(笑)。今日のメニューは、鳥のからあげ、マグロのフライ、味噌汁、ご飯、サラダ、そしてお茶カジュース。どうも、御馳走さまでした。



▲機器分析室で担当者の説明を聞く

各コースとも見学を終えると、今度は武蔵工大の紹介ビデオの鑑賞となりました。その後は、学生食堂での試食会を兼ねたランチタイムに、ちょっと一息という感じ…。父母同士リラックスしながら、楽しい話に花を咲かせているようでした。

ビデオで実感——細やかな指導

●建築学科2年 林孝幸君のお母さん

武蔵工大の学校紹介ビデオ「マイテック・ルネッサンス元年」。大変、興味深く拝見させていただきました。大学の細やかなことが、簡単にわかっていうんですか。それが、良かったですね。学生たちが課外活動に励む姿もありましたし…。マンモス大学と違って、個別指導がありますし、親にとっても安心です。成績表に基づいて、先生にお話を伺ったりすることもできますしね。子供にとっては、とっても恐ろしい事かもしれませんが…(笑)。



他大学と比べてみて——

“学生本位の大学”という印象ですね。

●建築学科1年 吉田基晴君のお姉さん

私は新潟の大学に通っているのですが、こんなに機材も揃っていないし、まずやすやすと学生が利用できませんね。研究とかには、機材は欠かせないものしょうから、学生の研究に理解があるなあという印象です。その点、羨ましいですね、弟が…。あと、学食も安いと思いますよ。サービスセットみたいのものもあるし、メニューも豊富でしょ。それにキレイですね。学食が一。うちの大学も見習って欲しいものですね。とにかく全体を通して、感心させられることばかりでした。



ちょっと一言—勉強もクラブ活動も頑張れ!!

●建築学科1年 武田勝君のお母さん

うちの子は、クラブ（アーチエリー）ばかりやってますね。勉強は大丈夫なのかしら…と思うほど、頑張っているみたいですよ。でも、ちゃんと勉強の方もしているようですので、心配はしていませんけれど…。武蔵工業大学は、文化系と違って、レポートや課題の提出が多いでしょ。初めの頃は、“こんなに遅くまで遊んでいるなんて…”と思っていたけど、実は大学で課題をやっていたらしくてビックリしました。“ふーん、そんなに頑張っているんだ”と感心したというか…。普通、受験勉強は一生懸命やったけど、大学に入ると遊んでばかりいて、勉強しなくなるでしょ。でも、ここは勉強している方だと思います。まあ、身体を壊さずに、勉強にもクラブにも頑張って取り組んでほしいです。



古浜庄一学長から



世界情勢が目まぐるしく変化している現在、人間の幸せは何であるか——を考えることが、重要だと私は考えます。今までの技術屋は企業の利益だけを追求してきましたが、これからは、いかに地球や教育や社会に貢献するかが問題。一部の人にしか寄せがいくことで成り立つ幸せではなく、本当に人々の幸せに役立っているかを判断する資質が必要なのです。

武蔵工業大学の教育目標は“広い心”。この言葉には“広い心”で、豊かな友情、地球、創造力を生み出してほしいという願いが込められています。

また、学生と教員のコミュニケーションの活性化や課外活動も推進していく考えです。

勉強については、優は少くとも、何か一つだけでも自分のものにしてほしい——。それだ世の中の為になればいいと思います。

また大学院、および施設の充実も考えていますので、大学院への進学も積極的に考えていただきたいと思います。

今村恒雄 後援会理事から



学長が目指す課外活動の推進を父母がバックアップしようという目的で設立されたのが、後援会です。大学をサポートする形で、人間性豊かな、技術者の育成を応援しています。

平成3年度の予算は、総額8,366万円。課外活動の援助を主とする他、全国21ヵ所で行われる「大学と父母との連絡会」の運営、さらに父母とのコミュニケーションを図る後援会誌“Micom”の発行などを行なっています。今後もより多くの父母の皆さんのご理解をいただき、さらに充実した武蔵工業大学を築き上げるべく、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

午前と午後に分けられた連絡会は、1時15分から体育館において、古浜学長と後援会の今村理事の挨拶が行われました。古浜学長は主に武蔵工大生に望むこと、また、今村後援会理事からは、後援会へのさらなる理解と、円滑な活動のための一層の協力が呼びかけられ、会場に集まった父母の皆さんも大変熱心に聞いていました。

学長と後援会理事の挨拶が終わると、次は学科、学年別懇談会。先生から、学生生活や授業内容についての説明がありました。その後、希望者には個人面談が実施され、すべての日程を無事終了。今日一日で、学生生活をほんの少し垣間見ていただけたのではないのでしょうか。さまざまな感想を胸に、武蔵工業大学を後にした父母の方々、朝早くから本当にご苦勞様でした。そして、取材に応じていただいた、たくさんの方々の父母の方にこの場を借りてお礼申し上げます。



▲学科、学年別懇談会でキメの細かい説明を聞く

前年度後半からの株価の急落、地価の下落などバブル経済の崩壊で、景気の上昇が衰えた感のある経済状況ですが、本学への各企業の求人意欲は、依然旺盛で、売り手市場に変わりありません。

本学の学生に対する求人倍率も工学部で55.8倍、大学院で336.1倍となっており、いずれも前年度のデータを上回っております。学生達は、非常に好調な就職戦線乗り越

え、目指す企業から、それぞれ内定を得ております。

しかし、設備投資の減少などで、企業は採用人員を減らす傾向にあると聞いております。したがって、企業の選考基準は、今後厳しくなるものと予想されますので、来年度の就職戦線は、決して楽観できません。来るべき就職戦線に備えて、一層の努力が望まれるところです。

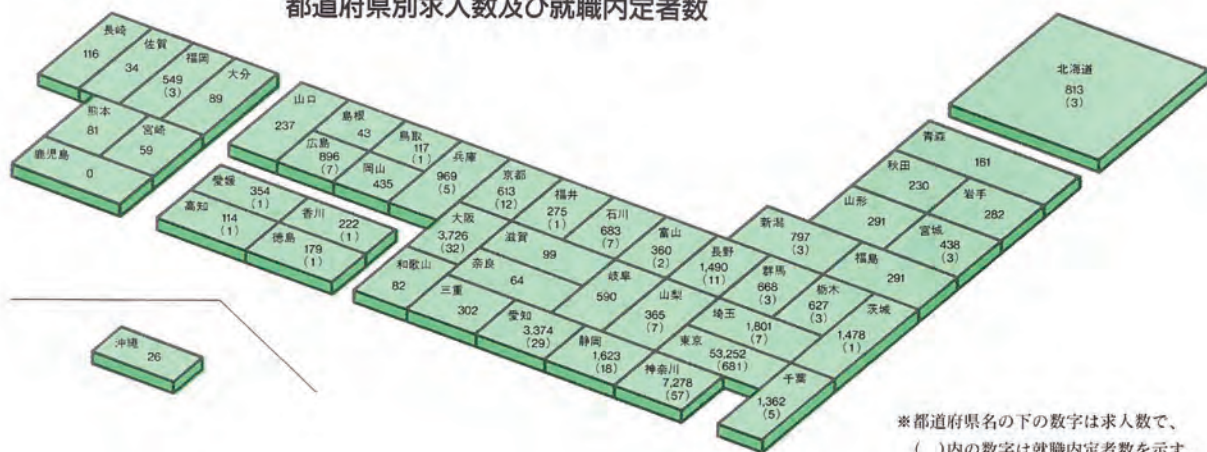
(資料は平成3年10月16日現在 大学就職課より)

■平成3年度求人就職内定状況

項目 学科・専攻	卒業(修了) 予定者	就 職 希望者	就 職 内定者	就職内定率 (%)	求 人 企業数	1人当り の企業数	求人数	1人当り の求人数	進 学 希望者	進 学 決定者	その他
機械工学科	282	221	213	96.38	3,880	17.5	8,740	39.5	60	59	1
電気電子工学科	173	130	125	96.15	3,925	30.1	8,881	68.3	43	40	0
電子通信工学科	117	97	93	95.87	3,220	33.1	7,578	78.1	18	15	2
建 築 学 科	140	105	95	90.47	3,051	29.0	7,639	72.7	32	32	3
土木工学科	160	136	132	97.05	2,877	21.1	7,123	52.3	24	24	0
経営工学科	168	151	136	90.06	2,968	19.6	6,960	51.1	16	16	1
小 計	1,040	840	794	94.52	19,921	23.7	46,921	55.8	193	186	7
機械工学専攻	32	27	27	100.00	2,677	99.1	6,220	230.3	2	0	3
生産機械工学専攻	13	13	13	100.00	2,582	198.6	6,082	467.8	0	0	0
電気工学専攻	45	39	36	92.30	2,715	69.6	6,294	161.3	4	3	2
建築学専攻	12	12	10	83.33	2,260	188.3	5,697	474.7	0	0	0
土木工学専攻	11	11	8	72.72	2,205	200.4	5,569	506.2	0	0	0
経営工学専攻	14	14	11	78.57	2,350	167.8	5,743	410.2	0	0	0
原子力工学専攻	7	6	6	100.00	2,103	350.5	5,409	901.5	1	0	0
小 計	134	122	111	90.98	16,892	138.4	41,014	336.1	7	3	5
合 計	1,174	962	905	94.07	36,813	38.2	87,935	91.4	200	189	12

■平成3年度卒業見込者に対する

都道府県別求人数及び就職内定者数



■平成3年度就職内定先上位50社

順位	企業名	工 学 部						大 学 院							合計	昨年実績
		機械	電気	通信	建築	土木	経営	機械	生産	電気	建築	土木	経営	原子		
1	株式会社日立製作所	4	3	5			10	1	1						24	22
2	バイオニア株式会社	4	4	5			4			1			1		19	12
3	株式会社東芝	3	3	4			3	1		3				1	18	18
4	大成建設株式会社		2		9	4					1				16	14
5	富士通株式会社	4	3	2			4			1					14	16
9	日産自動車株式会社	2	2	2			2	5		1					14	14
	キャノン株式会社	2	2	3			2	1	1	2			1		14	9
	東京都庁		1	1		10						1	1		14	4
	ソニー株式会社	1	1	2			5		2	1			1		13	11
	日本電気株式会社	2	1	3			7								13	14
11	鹿島建設株式会社	2			7	1					2				12	9
12	三菱電機株式会社	2	1	4			1			3					11	12
13	沖電気工業株式会社	3	3				3								9	12
	キャノン販売株式会社	2		1			6								9	8
	山武ハネウエル株式会社	3	1	1			4								9	15
16	松下電器産業株式会社	2	2	1			2		1						8	9
19	松下通信工業株式会社	1	1	5				1							8	9
	オリンパス光学工業株式会社	3	3					1		1					8	12
	京セラ株式会社	1	1				4						1		7	3
	株式会社竹中工務店				4	1	1				1				7	4
23	戸田建設株式会社				5	1	1								7	8
	東急建設株式会社				2	4	1								7	3
	日本電信電話株式会社	1		1		2	1				1				6	6
	東京電力株式会社		2	2		1		1							6	5
	日本アイ・ビー・エム株式会社		1	1			3		1						6	9
	三菱化成株式会社						2	2					1	1	6	2
	日本電装株式会社	3	2					1							6	2
	清水建設株式会社	1			2	2	1								6	7
	石川島播磨重工業株式会社	2						2	1	1					6	8
	株式会社大林組				4	2									6	4
	株式会社ニコン	2	2				2								6	6
	富士ゼロックス株式会社	1	1						1	2			1		6	6
	日本ビクター株式会社	1	2	2						1					6	7
	佐藤工業株式会社		1		3	1					1				6	1
	横河・ヒューレット・パッカード株式会社	1	2	1						2					6	5
37	株式会社PFU	3		2			1								6	4
	三菱重工株式会社	4	1												5	6
	積水ハウス株式会社				4	1									5	6
	三菱自動車工業株式会社	5													5	9
	株式会社熊谷組				3	2									5	2
	株式会社リコー	1	2	1			1								5	10
	株式会社小松製作所	2	2							1					5	2
	株式会社フジタ				4	1									5	5
	スズキ株式会社	5													5	6
	オムロン株式会社	2	2				1								5	4
	荏原製作所	5													5	8
	日本電気ホームエレクトロニクス株式会社		2	1			1			1					5	0
	横浜市役所					3						2			5	4
49	東日本旅客鉄道株式会社、トヨタ自動車株式会社、旭硝子株式会社、富士重工株式会社、全日本空輸株式会社、富士写真フイルム株式会社、 株式会社豊田自動織機製作所、株式会社間組、三井ホーム株式会社、三機工業株式会社、日本ユニシス株式会社														各社 4	

クラブ活動紹介③

クラブ活動紹介第3弾、今回は、ユニークな発想をもとにMIT祭で展示発表し、多彩な活動を続けている鉄道研究部と、春の関東大学アイスホッケートーナメント戦(4部)で優勝し意気上がるアイスホッケー部をご紹介します。

バラエティーに富む活動!! 鉄道研究部

部活動のおもしろさ

我が部は、鉄道だけが興味の対象ではなく、やりたいこと(飲み会、ボーリング、カラオケなど)すべてができる自由な気風を持った部です。もちろん鉄道に関しては、大好き集団で、毎月1回のペースで小旅行を企画しています。それは、鉄道を実際に見、手で触わって、音を聴き、その迫力を感じることができるからです。

移動は部員の車で休日を利用して行くことが多く、東京から200km~600km位のおもしろ鉄道、珍しい鉄道、風景になる鉄道を求めて出掛けて行きます。本来の目的の他にも、車の中でキャンプをしたり、駅の待合室を寝ぐらにすることも……。そして、地方の人々とのふれあいなどの楽しさがあり、一味違った道中にしていきます。そして翌日、憧れの鉄道に出逢い、充実した時を得るのです。また、4年生も研究活動の合間を見て参加しています。



▲栃木県小山でDB252機関車との出逢い 左より寺本孝広君(機械4年)、高橋基司君(機械2年)、柳河勇君(土木2年)、荒井一仁君(土木3年)

この夏、私たちは四国の高知で合宿しました。行きは、必ずしも鉄道を利用していくとは限りません。ある者は車で来たり、またある者は船で来たり……。出発する時も、一斉に出発するのではなく、個人または、2・3人の少人数で出発します。合宿は、基本的に現地集合、現地解散なのです。そして、宿に着くと、互いの情報交換で話が盛り上がります。そして合宿最大の目的は集団でないとできないことをすることです。つまり、車両基地の見学です。ふつう車両基地というのは、なかなか個人での見学を受け入れてもらえませんが、集団で見学を申し込むと簡単に許可が得られます。私たちは、JR四国高知運転所を見学させてもらいました。この車両基地は、高知地区で使用されているローカル用車両から特急車両、機関車まで揃った大きな施設です。普段見ることのできない車両の検査、修理風景、保線工事や車両の保守に関する現場の生の声、こぼれ話など、本で読むことができない面白い話をたくさん聞かせていただきました。そして合宿の団体行動が終わったその場で解散となり、一人ひとりそれぞれの目的地へと散って行くのです。こうしたスケールの大きいイベントを多く行うのも、この部の特徴でしょう。

その他には、Nゲージの大レイアウトを作って、自慢の車両を持ちよって運動会をやっています。教室いっぱいに広がるレイアウトはとても迫力があります。

鉄道以外のイベントとしては、スポーツにも力を入れています。5月に催される体育祭には積極的に、バレーボール、ソフトボール、卓球、剣道

鉄道研究部

顧問：佐藤三穂教授(機械工学科)
部長：新井一仁(土木工学科3年)

部員数：28名

主な年間活動→4月花見、新歓コンパ/5月新歓合宿、体育祭参加/6月工場見学/9月夏合宿/10月工場見学/11月MIT祭(展示・おでんや)/12月学鉄連ソフトボール大会/1月追い出しコンパ/3月春合宿

など多数の競技種目に参加しています。また、他大学の鉄道研究部の集まりである、関東学生鉄道研究会連盟(学鉄連)で主催するソフトボール大会にも参加しており、体育祭や学鉄連のソフトボール大会が近くなると、多摩川のグラウンドで部内でチームを作りソフトボールの練習試合をしています。

このように、部員一人ひとりのアイデアを大切に、魅力ある活動をつづけていきたいとおもっています。“活動内容は俺たち次第”をモットーに鉄道研究部出発進行。

'91 MIT祭

MIT祭での展示は、部活動の主たる目標で、発表に向けて年間を通して準備と制作にあたります。

'91 MIT祭は、“信号”にスポットをあて、資料を集めたり、見学を実施したり、ミーティングを重ねてその結果を発表しました。内容は教室内での模型展示、パネルの展示、部誌“STEEL CAR学鉄号”の発行の3つがあります。

まず取材ですが、テーマに従って日立製作所水戸工場、京三製作所の見学を実施。そこでは、信号装置、信号システム、車載装置、地上装置等、実物を見ながら、信号のシステムとその重要性を実感しながら学ぶことができました。その他文献



▲信楽高原鉄道事故再現模型と部誌“STEEL CAR”



▲川崎市高津「電車とバスの博物館」にて

▼MIT祭の模型レイアウト展示



や雑誌で調べたことをまとめて、部誌“STEEL CAR”を1.閉塞区間について、2.信号装置、3.制御装置、の3つのブロックに分けて編集し大変な好評を博しました。模型化は、あの忌むしい信楽高原鉄道の事故再現模型と、ATC (Auto Train Control) 装置(※)の展示を行い、信号の役割の大切さをみなさんに理解していただけるようにしました。

その他、教室展示だけでなく、プレーコートAにおでん屋(おでん屋鉄ちゃん)も毎年出しています。おでん屋には毎年大勢のOBがみえて、おでんを食べて、お酒を飲んで色々な会話が花が咲きます。そして何と言っても鉄研のMIT祭といえは最終日の樽割りでしょう。おでん屋の売上の一部で2斗樽を買って、みんなで樽を割って飲みます。

こうして1年間の活動をMIT祭で展開することは大変ですが、それを達成した時の喜びもまた格別で部内の連体感が大きく盛り上がります。

(※)ATC装置の模型はPOCKET COMPUTERを用いて列車の位置を検出し、それにしたがって必要な信号を設定していきます。もし列車が前の列車に近づきすぎると(信号が黄色の区間に入ると)自動的に速度を落とすようになっています(信号が赤の区間に入ると列車は止まります)。また信号にはフェイルセーフ装置が組み込まれておりCOMPUTERが変な信号を送ってくると、信号は赤になる様になっています。

活動費について

主な活動費としては、部員からの部費(前期2,500円、後期2,500円)のほかに後援会、大学、OB会からの援助金、文団連の分配金などがあります。この他にもイベント(合宿やコンパ等)での余剰金も活動費にしています。また面白いものとしては、OBから頂いたり、部員が持ってきた雑誌や小物、写真などを部内でオークションにかけ、一品10円から始め、ほとんどが数十円から200円ぐらいで落札。中には、2,000円以上になるものもあり、売上総額が1万円を超えることもあります。もちろん売上金は活動費に組み入れます。この様にして集めた活動費は部内各班の活動費や、学祭での展示費用、関東学生鉄道研究会連盟の活動参加費、体育祭参加費、部誌“STEEL CAR”発行の費用などにあてています。

OBについて

我が鉄道研究部では、OB会という組織があり、卒業するとすべての部員は入会します。創部30年を超える伝統ある部ですので、入部人数も他部と比べ、トップクラスです。もちろん学生時代と同じ様な活動をしているわけではありませんが、活動規模が大きくなります。その中で特記したいのが、貸切列車の運行です。一つの列車を貸し切りますので、減多に行くことはできませんが、それでも、89年にはJRのイベント列車、90年には都電荒川線と2年連続で実施しています。また、鉄道会社や、鉄道関連会社に就職しているOBが多く、工場見学などで大変お世話になっています。MIT祭前になると、しっかりやっているか、作業に不都合がないかと、様子を見に来られます。MIT祭で行う「おでん屋」でOBと酒をくみ交わし、親交をあたため合っています。OBの名前を覚えないと酒を飲まされると、1年生にとってはとても恐ろしいイベント?も、恒例となっています。

顧問のプロフィール



▲佐藤三禄教授(機械工学科)

顧問の佐藤三禄先生は、去年まで、学生部長を務めていたのですが、その時はいかにも学生部長らしく、貫禄があって、少し違った世界の人に思っていました。しかし、今年5月に新入生歓迎合宿の時に、それは、全くの偏見だという事がわかったのです。合宿は江の島の民宿だったのですが、そこに先生はZゲージ一式を持ってきて、なんと民宿内で、運転会を行ってしまったのです。宴会が落ち着いて、夜も遅くなった頃、三禄先生の部屋に数人が集まり、普段見られないドイツ製の鉄道模型の運転会を行い、先生が持ってきたワインで二次会を行いました。ドイツの鉄道模型を見ながら赤ワインで乾杯というのも格別だったのですが、三禄先生の話もおもしろく、「鉄道模型と、実物の車両のスケールについて、本格的に研究したらおもしろいだろうね。」と始まり、本来勉強とは、少しの遊び心を持たなければならないとも話しておられました。走り回る鉄道模型を見る先生の目は、「少年の心」をいつまでも持ちつづけているといった感があふれ出ていたように見えました。

▼OB現役合同都電乗車会



▲MIT祭で出店の「おでん屋鉄ちゃん」

氷上の格闘技に燃えるアイスホッケー部

冬のスポーツの一つとして人気急上昇中の“アイスホッケー”。スピード感あふれるゲーム展開、ダイナミックなぶつかり合い、そしてユニフォームのカッコ良さに憧れる人も少なくありません。

今回は、関東大学アイスホッケーリーグ・武蔵工大VS筑波大学の試合の模様をお届けしながら、“氷上の格闘技”に燃える、武蔵工業大学アイスホッケー部をご紹介します。

試合前から熱気ムンムン!!

応援合戦だって、負けるもんか!!

平成3年10月18日(金)。舞台となった東伏見アイスアリーナは、続々と集まる各チームの熱気でムンムン!! 試合前から、秘められた闘志の火花が散っているようでした。

そんな雰囲気の中、武蔵工大アイスホッケー部は、12:00頃からウォーミングアップを開始。これから始まる激しいゲームとは裏腹に、黙々とストレッチを行う姿がとても印象的です。また、今日の対戦相手の筑波大学からは学ラン姿の応援団員と2人のチアガールが登場し、ゲーム前からいやがおうにもムードが盛り上がります。こちらも負けてはいられません。試合も応援も頑張っ!! そんな雑然とした中、選手たちが颯爽とリンクに現れると、たちまち会場の空気が凛として——緊張感がみなぎってきました。



▲スピードと力の競演!



▲試合開始直前のミーティング

鮮やかなユニフォームに包まれて——

激しいぶつかり合いが始まった!!

白地に青の筑波大学のユニフォームに対し、武蔵工大は白地に蛍光オレンジと紺のラインが入った鮮やかな出で立ち。なかなかキマッています。その彼らがリンクの中をスピーディに滑るのですから、カッコイイのも当然です。転がったり、氷の感触を確かめながら滑ったり、スティックを振ったりと、5分間の練習が終わると、時計は13時10分。いよいよフェイスオフ、試合開始です。スティックを上げ、礼をすると、声を出しながら、それぞれのチームのゴールへ——。そこで円陣を組み、改めて気合を入れ、リンクに選手が散らばります。

ここで少し、アイスホッケーについてご説明しましょう。アイスホッケーは、3つのピリオドから成り立ちます。1ピリオド20分、つまり、正味

1時間の戦い。この1時間を選手はフル出場するわけではなく、ドンドン交替をしながら、ゲームを続けていくのです。

——さて、第1ピリオド、試合開始52秒で、いきなり16番の小川君のシュートが見事に決まり1点先制。なかなか幸先のいいスタートです。この勢いで、筑波大学を圧倒して欲しかったのですが、その後どうもリズムがつか

アイスホッケー部

顧問：師岡利政教授(機械工学科)
主将：小川 誠(建築学科4年)

部員数：31名

主な年間活動→4月関東大学アイスホッケー選手権大会 / 5月体育祭参加、新歓コンパ / 6月OB戦、水泳大会参加 / 7月納会 / 9月合宿 / 10月関東アイスホッケーリーグ戦 / 11月OB戦、MIT祭参加 / 12月納会 / 1月冬合宿 / 3月春合宿



▲「これを教訓にガンバります」と間久和君

かめず、ゲームは少々押され気味…。ゴール前からの攻撃チャンスは結構あるのですが、シュートが決まらず得点はなし。パスもなかなか通ってきません。まだ、身体が温まらないのでしょうか…。しかし、そのスピード感は凄い一言。ジツとしている観客にとっては、寒さが身にしみるはずなのですが、ゲームを見ていると、一緒に熱くなっていくのが不思議です。選手たちの姿はまさに“格闘技”といっていいほどの荒々しさ。若い身体と身体のおつかり合いが、観客の心をつかみます。スティックのおつかる音、体当たりの音、審判のホイッスルの音など、さまざまな音が会場に反響して、大迫力のゲームをつくり出していくのだと感じました。

しかし、第2、第3ピリオドも今一つ調子に乗り切れず、途中、福田君のシュートで追いついたものの終わってみれば4対2。残念ながら、筑波大学に破れてしまいました。



◀敵ゴール前に肉迫した猛攻

学業も大事だけど、やっぱりクラブが1番——。

試合後の悔しさの中、今年度主将の小川誠君(建築学科4年)他2名の主力選手に話を聞くことができました。

今日は残念な結果に終わってしまいましたが、今年度の勝率がなんと9割5分と聞いて、ビックリ!! それもそのはず、春の関東学生トーナメント戦では並居る敵を次々と破り、見事に優勝を遂げているのですから…。また、1959年設立という歴史に約100人のOBを擁すると聞けば、応援席にいたたくさんの方たちの姿も納得できました。現在、部員は31名。シーズン中は週3回の練習や自主トレ、陸上トレなどを実施。リンクが大学にないので、新横浜のアイスアリーナなどを夜間借り切って練習するそうです。用具の方は、忙しい合間を縫ってのアルバイトで、ほとんど自分たちで購入しているとのこと…。そして部員たちは春や夏には合宿、練習試合を行い、年3回の大きな大会に向けて頑張っているのです。「クラブの中には、勉強も優秀な人もいますが、僕はクラブ第1!! 勉強は2番目ってとこかな…。」と笑っていたのは小川君。課題提出が多い理工系の大学で、しかも公式戦が平日に行われるというハンディ・キャップの中で、クラブを熱心に続けることは大変なはずですが、でも、何かに熱中できる——ということは、卒業後の大きな力となるに違いありません。クラブ一生懸命も、いいじゃないですか!?



◀試合が終って全員集合

初心者だって、やればできる!! 可能性があるクラブです。

「新入生の勧誘は、とにかく見学に来てもらうことから始まります。」と語るのは、アイスホッケーの本場カナダまで勉強に行ったことのある姫野正樹君(機械工学科4年)。

「アイスホッケーは、見た目にもカッコイイし、絶対にやってみたくになりますよ。」とのこと。アイスホッケーは、大学から始める人がほとんどなので、頑張りさえすればレギュラーが取れるのだそうです。これは、なかなか狙い目ではないでしょうか…。

「それに…」と間久和君(機械工学科3年)が続きます。「運動神経にかかわらず、入部したらその人がモノになるまで一から面倒をみますから、初心者だって安心。誰でも上手くなるチャンスはありますよ。」と、嬉しい一言。OBや上級生から下

級生へ、熱い指導というわけです。

チームワークが良くて、明るいムードのアイスホッケー部。「体育会だから、キビキビしているし、練習は真剣だけど、コンパもあるし楽しいよ」。こんな返事が多くの部員から返ってきました。

今回は残念ながら、勝利の女神は微笑んでくれなかったけれど、この次は一生懸命応援している東横短大の10人のマネージャーのためにも頑張っ



▲マネージャーの東横短大生たち

〔事務局だより〕

大学では学長方針として、全学生に何らかの課外活動に参加するよう呼びかけて参りましたが、その成果が着実に実り、本年度になって課外活動に参加している学生数が50%の大台を越えました。他大学の平均が約30%ですから、学長方針が着実に浸透していることが分かります。これも後援会のご援助の賜と感謝する次第です。

さて、学生部では今年の夏に、先生方が手分けをして学生達の合宿訪問を実施しました。目的は学生達の合宿の実態を知ることと、その激励です。今年は15団体の合宿先を訪問しましたが、大変参考になりました。どの部も今年度は新入生の数を増やしたためか、合宿に気合いが入って参りました。また、僅かずつですが差入れを持参したこともあってか、我々の訪問を大変喜んでくれました。

毎年恒例の「大学と父母の連絡会」も各地で開催され、多くの父母に参加して頂きました。今年は古浜学長が中国及び四国地方に参り、親しく父母の皆

事務局担当 学生部長 星野 重夫



様方と懇談され、好評を得ております。来年も何処かの地方に参加して頂ければと思っております。

学内では後援会の援助によるリサイクルボードが9号館の2階に設置され、お披露目が行われました。これは学生や教職員の間で不要になった品物の情報を交換しリサイクルしようとするものです。外国ではうまく活用されておりますので、本学にも根付いて欲しいと思います。このほか、事務局では未加入者に対する再度の入会案内の送付や学生の課外活動への援助金の支給など、今年5月の評議員会でご承認頂いた方針に沿って着実な活動を行っております。

"キャンパストピックス"

日頃は研究や実験・実習に追われる工学部の学生達。でも、だからこそより充実したキャンパスライフを目標に年間を通して活動しているのです。

1. 友達の友達はもちろん友達の体育祭

5月のゴールデンウィークも終わり、構内にもようやく落ち着きが見え始めた頃、体育会の主催により体育祭が行われます。この期間は授業も休講となるため、体育会のクラブはもちろん、研究室の学生、有志チーム、そして普段は教壇の上に立っている教職員も混ざりあつての熱い闘いに大学中が大いに盛り上がります。また、勝ち残ったチームの自称スカウトマンが、敗者チームから自称助っ人を連れてきてしまうので、誰がどのチームに所属していたのか、わからなくなってしまうことも度々あります。でも、一緒に闘い終えてみれば、あっという間に皆友達。表彰式の後、仲よく尾山台や自由ヶ丘にくりだす武蔵工大生です。



▼体育祭

▲水泳大会



2. 大きな原動力、後援会からの課外活動支援

平成3年6月19日、平成3年度第1回目の後援会による「課外活動に対する補助制度」の援助金が支給されました。16件の支給対象団体の中で今回立ったのは、各大会の幹事校としてかかる、多くの費用の一部を援助する目的のもので3件あ



▲注目をあびる洋弓部小山桂介君

りました。また、10月に行われた第2回目では、バルセロナオリンピック第一次予選大会等、数々の全国大会への出場が決定している洋弓部の小山桂介君(建築4年)に、その遠征費が援助されるなど、今や学生の課外活動を支える大きな原動力となっています。

3. 新たな交流、学生部による合宿視察

夏休みに入ってすぐから後期の授業が始まる寸前まで、多くの学生団体が合宿へと出発します。この夏合宿に、今年は学生部長をはじめとした学生部委員の先生方4名が、山梨・長野県を中心に視察として合宿訪問しました。突然の先生方の訪問に驚いた学生達も多かったようですが、遠く大学を離れているせいか、夏の解放感からか、ほんの2、3時間の交流でも打ち解けるのが早かったようです。そして、普段なかなか見ることの出来ない練習風景や、学生達の違った一面に触れることができ、好評のうちに視察を終えることができました。どうやら、先生方と学生の間に新しい交流の場が生まれたようです。



▲夏の合宿風景(弓道部)

4. 備えあれば憂いなし、日本赤十字救急訓練

かねてより要望のあった救急訓練の講習会が、10月2日(水)午後、学生部の主催により行われました。当日は運動系のクラブの学生を中心に約100名がトレーニングウェアで体育館に集合し、講師の先生について講義を聞いたり、止血法・包帯の巻き方等、基礎的な技術を実習したりしました。予想外にもワイワイガヤガヤと楽しく講習することができた今回ですが、この技術があまり役に立たないことを願いたいものです。



▲救急訓練で応急処置の講習を受ける

5. “We our ^{あす}未来”、MIT祭

10月の声をきくと、派手なジャンパーに身をつつみ、忙しそうに構内を駆けまわる学生達が目に付きます。MIT祭実行委員会と呼ばれる彼らのそんな姿を見つけると、学園祭=MIT祭が近づいていることに気付かれます。そして彼らにつられて、大学中がなんとなくソワソワし始めるのです。11月21日から4日間に渡って行われるMIT祭では、コンサートあり講演会あり、模擬店・展示会・発表会あり、そして日頃の研究成果を発表したりと学内を問わず近隣住民の方も加わって大変にぎやかです。また、今年から普段は事務を担当している職員も、テントを構えてバザーでMIT祭を盛り上げます。毎年テーマが変わるMIT祭の今年のテーマは、“We our ^{あす}未来”。皆さんも是非一度、このMIT祭を訪れてみてはいかがでしょうか？



▲MIT祭の会場で大人気のMITバード

会員の皆様のご意見、 ご希望をお寄せください!!

後援会では発足3周年を迎え、今後の飛躍、発展が期待される所ですが、このたび新しい事業を検討しております。

このため広く会員の方々から後援会に対するご意見、ご希望をいただき、新しい後援会の事業に反映いたしたいと思います。

ぜひ多数の方々から建設的なご提案をお待ちいたします。

(はさみ込みのハガキをご利用ください)

武蔵工業大学後援会事務局

6. 師走、学生も大忙しの新旧役員交替

12月は学生にとっても忙しい季節です。新旧の役員懇談会(学団連・文団連・体育会の役員合同)をはじめ、各々の団体においても役員交替の懇談会が行われる為、役員の学生はいくつもの会に顔を出さなくてはなりません。また、新しく役員に選ばれた学生は、12月下旬に学生部の先生方とリーダーズキャンプに出席してリーダー教育を受けたり、翌年2月に行われる各クラブの部長・主将等約130名を一堂に集めてのリーダーズキャンプの運営等について、話し合わなければなりません。次年度の活躍を大いに予感させる12月です。

平成3年度2回目の後援会理事会が開催される。

去る11月9日(土)13時30分から今年度2回目の後援会理事会が大学において開催されました。当日は役員、理事14名(委任出席2名)が出席し、平成3年度前半の事業、父母との連絡会の概要と後援会の新しい事業等について検討され、15時30分に終了しました。

以下、理事会で検討された議題です。

1. 平成3年度 後援会事業経過について
2. 平成3年度 後援会入会者数について
3. 平成3年度「父母との連絡会」の結果について
4. 後援会の今後の事業について

イ. 平成4年度 後援会主要会議等予定(案)

ロ. 平成4年度 後援会役員、評議員構成(案)

ハ. 平成4年度 入学予定者に対する入会案内の送付日程(案)

ニ. 「武蔵工業大学後援会賞」の規定(案)について

ホ. その他

平成3年度「大学と父母との連絡会」について

平成3年度の「大学と父母との連絡会」は、7月14日(日)に初めての開催地となりました沖縄県那覇市を皮切りに、10月7日(月)の山梨県甲府市までの間、全国21会場において開催されました。

特に今年は、大学から古浜学長に中国・四国地区に参加いただいたり、昼食を取りながらの懇談会形式が採り入れられて好評でした。

なお、各会場の出席状況は下記のとおりですが、各地において評議員の方々には会の運営等にご協力いただきました。

■平成3年度「大学と父母との連絡会」の出席状況

開催地	開催日	会場名	対象県	対象者数	出席者数	出席率	平成2年度
函館	9月15日(日)	ホテル・リッチ函館	北海道	62名	19名	30.6%	※銀路 37.5%
札幌	9月16日(月)	札幌東急イン					※札幌
福島	8月31日(土)	福島ビューホテル	福島	43	16	37.2	※ 36.6
仙台	9月1日(日)	ホテル・サンルート仙台	青森	14	11	7.1	20.0
			岩手	19	8	42.1	※ 68.8
			秋田	24	2	8.3	25.0
			宮城	21	12	57.1	15.8
			山形	9	2	22.2	9.1
宇都宮	9月23日(木)	宇都宮ロイヤルホテル	栃木	58	24	41.4	13.3
東京	9月23日(木)	本学	東京	1,014	168	16.6	※ 13.5
			神奈川	1,393	193	13.9	13.6
			埼玉	294	51	17.3	10.4
			千葉	242	39	16.1	※ 9.9
			茨城	80	16	20.0	※ 41.3
高崎	8月31日(土)	高崎ターミナルホテル	群馬	50	20	40.0	8.2
新潟	9月1日(日)	ホテルイタリア軒	新潟	42	21	50.0	※ 56.3
長野	10月6日(日)	長野バスターミナルホテル	長野	115	31	27.2	※松本 32.1
甲府	10月7日(月)	甲府ホテル	山梨	62	29	46.8	※ 39.0
富山	9月7日(土)	富山第一ホテル	富山	39	20	51.3	※ 47.4
金沢	9月8日(日)	金沢東急ホテル	石川	46	20	43.5	※ 32.6
			福井	13	4	30.8	30.0
静岡	8月8日(木)	静岡第一ホテル	静岡	193	63	32.6	※ 34.4
名古屋	8月9日(金)	名古屋東急ホテル	愛知	70	32	45.7	※ 36.0
			岐阜	22	5	22.7	20.0
			三重	35	8	22.9	13.9
大阪	8月10日(土)	新阪急ホテル	大阪	16	3	18.8	※ 42.9
			滋賀	6	1	16.7	40.0
			京都	12	2	16.7	20.0
			奈良	6	3	50.0	100.0
			和歌山	10	1	10.0	9.1
			兵庫	18	3	16.7	27.3
宇部	8月24日(土)	全日空ホテル	山口	29	8	27.6	20.0
			島根	13	2	15.4	30.0
広島	8月25日(日)	広島国際ホテル	岡山	26	1	3.8	※ 71.4
			広島	77	43	55.8	※ 58.4
			鳥取	12	1	8.3	8.2
松山	8月26日(月)	東京第一ホテル松山	愛媛	14	7	50.0	13.3
			香川	9	1	11.1	28.6
			徳島	11	1	9.1	16.7
			高知	11	2	18.1	※ 80.0
鹿児島	8月31日(土)	鹿児島東急イン	鹿児島	10	7	70.0	14.3
			宮崎	11	4	36.4	18.2
福岡	9月1日(日)	福岡天神ビル	福岡	43	20	46.5	※ 38.5
			佐賀	3	1	33.3	25.0
			長崎	8	3	37.5	0.0
			大分	22	9	40.9	※ 66.7
			熊本	8	7	87.5	71.4
那覇	7月14日(日)	沖縄東急ホテル	沖縄	7	7	100.0	16.7
合計				4,342	941	21.7	19.9

(※は平成2年度の開催地)